



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

## 性的マイノリティーの「理解」から、 一歩進んだまちづくりを

日本の LGBTQ+ に対する姿勢は、この数年で大きく変化している。メディアでは頻繁に取り上げられ、企業のジェンダーへの取り組みも進んできた。先日、目黒駅前ですり手前のように手を繋いで歩く男子高校生のカップルを見た時は、当事者の私も驚いたほどだ。

東京都は今年、同性パートナーシップ制度を導入する。一方、あきる野市議会では制度の導入を「趣旨採択」したそうだ。つまり制度の必要性は理解できるが、実現は難しいということである。それで良いのだろうか。

私は、あきる野市で育ち、10 代の終わりから 20 代をスペインとフランスという、どちらも同性婚（正しくは「全ての人のための婚姻」）が導入されている国で過ごした。同性でも結婚できることが「当たり前」という感覚で過ごしていた。しかし、日本はそうではない。昨年の東京オリンピックに参加した LGBTQ+ のアスリートは過去最多だった一方で、ホスト国の日本からは 0 人。日本は LGBTQ+ の当事者が生きづらい国だということが浮き彫りになった。

確かに LGBTQ+ の理解は進んできている。しかし、市議会の「趣旨採択」は理解止まりであり、当事者が「今」抱えている問題を解決するには不十分だ。同制度の必要性について疑問視されることもあるが、制度の導入は自治体が当事者の存在を認知・肯定しているというメッセージになる。

男子高校生のカップルが周囲からバッシングを受けることはなくなった（一昔前ならヤジが飛んでいただろう）。今度は、あきる野市でも彼らのような人たちが不自由なく一緒に生活できる社会の実現を目指してほしい。（T・A 元草花在住）

## あなたも市議会を傍聴しませんか ～市民 1 人 1 人の「福の種」として～

市議会傍聴という社会科見学をしませんか。議員 1 人 1 人が市民のために何をしようとしているのか、それがどんな事でどこにどんな問題があるのか、また、議員は、課題を具体的に提示し、解決に向けての方策、そこに至るまでのプロセス等を誰にでも分かりやすく語ってくれているか、さらに、議員と役所側のやり取りも含めて、見どころ、聞きどころが一杯です。

議会が終了する度に『市議会だより』が発行されますが、傍聴すると『市議会だより』からは見えず、聞こえず、感じられない様々な動きが一目瞭然。自分の意思で一票を投じた議員の様子を自身で確認する、これは、とても大切な事ではないかと思うようになりました。

自分が市議会傍聴に対し、少しずつ前向きになれたのは、辻さんの一般質問における真摯な姿勢からです。例えば、質問における裏付けとなる資料があります。「自分の住む町には良くも悪くもこんな問題があります。だから、皆で考えましょう」と言っている様に聞こえてくるのです。

ある作家の言葉に、「多くの国民が自分の半径 5 メートルの幸福しか考えていない」。正に実感です。70 代の自分にとって不登校問題は余所事よそごとでした。しかし、身近な議員の発言から、近所の小中学生に気持ち向くようになりました。市議会傍聴は、議員を通して、これまで特に気にも留めていなかった行政にも、しっかり関心の目を向かせてくれました。

そう思うと多くのプラス効果があり、これを市民 1 人 1 人の「福の種」として育てたいです。

（H・T 伊奈在住）



## “一人ではない”と実感できる場を ～子育てをして思うこと～

私は、4歳の娘と2歳の息子、そして夫と共にあきる野市野辺で暮らしています。自然と触れ合うことが大好きで、子どもたちもよく土や草で全身汚れるくらい思い切り遊んでいます。

親になり初めてのことばかりで毎日大変ですが、長女の乳幼児期には以前暮らしていた町の民間の子育てサービスで、理学療法士の方や管理栄養士の方から子どもの発達や発育について、直接話を聞いたことが大きな助けになりました。

子どもは幼児期のイヤイヤ期、ホルモンバランスの変化による反抗期、女子は月経による心身の大きな変化など、多くの変化を経ながら大きく育っていきます。子どもと一緒に暮らす人は、こうした変化に戸惑うことがあるのではないのでしょうか。こうしたとき、子どもの心身でどんな変化が起こっているのか、親はどういう声かけをし、どう接すれば良いのかという知識を持ち、対応の仕方を知っていると、より子どもの変化を理解し受け入れやすくなると思います。

具体的には、お話し会のような形で心配事や困っていることについて参加者が専門家に直接聞く場を設けること。また、同じ問題を抱えている人々が専門家を交えて10人程度で集まり、問題をシェアし“一人ではない”と実感できる場を設けることも、とても意味があることです。

人と人とのつながりが希薄になり、問題を一人で抱え込みがちな昨今こそ、問題を乗り越えていく知識を得る機会が、あきる野市に増えてほしいと思います。  
(K・A 野辺在住)

## デジタル社会の負の部分も考えよう

私は、辻議員が誕生したことで、初めて市議会の傍聴に行きました。木の壁の温もりを感じる議場と、辻さんの分かりやすい発言内容および手作りの資料に魅了され、頻りに傍聴に行くようになりました。でも、9月議会に行きビックリ！ 議員と市職員の机にはタブレット、議場と傍聴席の両脇には、大きなモニターが設置されていたからです。

少々電磁波過敏症の症状がある私は、30分もない内に気分が悪くなりました。また、紙の資料ではなく、モニターに映し出される資料の小さな文字は、高齢の私には見づらく、斜め上を見続けることで首も肩も凝ってしまいました。

デジタル化社会で、当たり前のように学校に導入され始めているタブレット。電磁波障害のある子どもたちは、通学できなくなったり苦しんでいるとのこと。

このあきる野市から、子どもたちが長く過ごす場所は、電磁波のない場所にしませんか？

子どもや高齢者が、健康で生きやすい、すてきな市を一緒に作りましょう。

今後私は、市役所一階のテレビモニターで少し離れた所から傍聴するつもりでいます。

(S・Y 高尾在住)



## ◆◆◆◆◆ 辻よし子・プロフィール ◆◆◆◆◆

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で市議に当選。現在、3期目。常任委員会は福祉文教。草花で、夫と次男、ネコ1匹と暮らす。

無党派  
一人会派

